



パチンコをやめた人々は、もう戻って来ないのか (続編)

LOGOS MEMBER'S COLUMN

先般のホール 5 団体の呼び出しや、1 ゲームあたり純増 2.0 枚以上の A T・A R T 機の新規設置が来年 7 月末となる通知など、市場のシフトに向け着実に歩みを進める遊技業界。その具体的なスケジュールは公表される段階にはないが、当事者間の「金がいくらかかる」という悩ましい問題とともに、ファンの維持に問題はないのか、はたまた狙い通りファン拡大をもたらす変革となるのか(変革にできるのか)は、業の存続という視点でさらに深刻な影を落とす。こういう時にこそ、ファンあつての業界との視点に、より軸足を置いた展開が求められてくる。

ここでは、9月のコラムの1つで掲載した“ファン呼び戻しの可能性”についての続編(シークエンス9月号に詳細掲載)をお届けする。

「やめて良かった」と考える理由を調査

昔はパチンコをしていたが、最近ではパチンコをしなくなった人々を「休眠プレイヤー」あるいは「パチンコ離反者」と一般的には呼ぶ。前回はこれらの人たちが現役プレイヤーであった時代の遊技動向についてレポートした。大半が「やめて良かった」と考えているなか、今回は「そのように考える理由」について、新しい調査データを元にさらに深くアプローチする。

今回開示するアンケートデータは、ワールド・ワイズ・ジャパンが保有するインターネットアンケー

ト回答者データベース(「T-ANSWER-NET」)を使用して、「パチンコをやめて良かった」と考える50歳以上の元・パチンコプレイヤー(現在はパチンコをしていない人)から回収した390件のアンケート結果(前回と同じ属性)。なお、「パチンコ」を対象にしたものであり、「パチスロ」については考慮していない。

「パチンコをやめて良かった」と考える理由の想定

本レポートは、休眠プレイヤーの93.70%が「パチンコをやめて良かった」と考えている点に着目した追加分析である。

調査を行うにあたり、「やめて良かった」と考える理由をいくつか想定した。前提としてパチンコという娯楽に限らず、何かの趣味やスポーツに熱中すると時間やコストがそれに割かれる点に注目し、これを(1)時間消費(2)金銭消費(3)肉体疲労(4)人間関係の4つを軸にカテゴリ分けした。用意した回答選択肢は次の通り。「色々なことに『時間』を使えるようになったから」「色々なことに『お金』を使えるようになったから」「身体が楽になった(疲れることが少なくなった)から」「別の趣味や娯楽で新しい友人が増えたから」「家族や子供、ペットなどと過ごせる時間が増えたから」「家族や友人との人間関係にトラブルがなくなったから」「その他」。回答においては、該当するものを複数選択することを可能とした。

～金銭面よりも時間的余裕に対する意識が高い～

結果は、「色々なことに『時間』を使えるようになったから」が最も支持率が高く 66.67%。次いで「色々なことに『お金』を使えるようになったから」が 58.72%。これら以外はすべて支持率が過半数に達しておらず、少数意見となった。

ただし「人間関係」について、選択肢を「友人との関係」「家族や子供、ペットとの関係」「(トラブルとしての)人間関係」の複数用意したため回答が分散したが、これらをひとまとめにすると、単純計算だが支持率は 40%を超えることになる。

この段階で仮の判断を下すのであれば、50 歳以上の休眠プレイヤーはパチンコをやめて「時間」と「お金」を（パチンコ以外のことに）有意義に使うことができる現状に満足しているという解釈ができる。

この結果については、「パチンコ=お金の掛かる娯楽」という一般的なイメージとはやや異なる結果になっている点で注目に値する。つまり、パチンコをやめることで金銭的なストレスから解放されたという満足感よりも、時間的余裕ができたことに対する満足感の方が 8 ポイント程度高い。パチンコは「お金の掛かる娯楽」以上に、「時間を消費する（消費し過ぎる）娯楽」であったことを休眠プレイヤーに再認識させているのである。休眠プレイヤーの再遊技参加促進策などを考える上では極めて重要な分析結果といえるだろう。

高齢化とパチンコ休止の関係

さらに、今後進む人口の高齢化を踏まえて、パチンコが長期的に存在し続けるための姿を模索した。「パチンコをやめて良かったと考える理由」を回答者の年代別に再集計したところ、高齢化するに従い、わずかながら時間的制限や金銭的支出からの解放よ

りも、人肉体的疲労からの解放や人間関係の充実を求める傾向があることが確認できる。この結果は現在、ホールで遊技中の高齢者にも当てはまる可能性があり、接客や景品などのサービス面でヒントにできるかもしれない。

ただ、全体的にはやはり時間的制限や金銭的支出からの解放は、パチンコをやめて良かったと考える大きな理由であることに変わりはなく、高齢者にとってこれらを費やすに値する娯楽としての在り方の研究は必要と考えられる。

もう一度遊技してみたいくなる環境とは

2 回にわたり休眠プレイヤーの再遊技参加の可能性について考えてきたが、果たして長期的にはパチンコはどのような道を歩むのが良いのだろうか。金銭消費という点に問題が集約していないことが確認され、一方で業界が大きく掲げる（掲げさせられている）「時間消費」に対して疑問が残る結果となった。

ともあれ、パチンコを一度やめることにより手にした新しい「予算」と「時間」によって、他の趣味や娯楽を通じて得られた幸福感を休眠プレイヤーが手放す可能性は低い。また、上記のような理由で今後パチンコから離れる人々の存在も考えられる。新たな遊技機市場（遊技機とホールオペレーション）がどのような魅力を既存ファンと元プレイヤーに与えることができるのか。現在のプレイヤーにパチンコをやめる時期を先送りさせることでマーケットの縮小ペースを低下させるにせよ、プレイヤーの「予算」と「時間」に対する価値観へのアプローチを十分に行わなければ、本質的解決には至らない。市場シフトを迎えるいま、「やめて良かった」と思われたい娯楽の在り方を、これまで以上に考える必要が指摘される。

ロゴスメールマガジン VOL.380

(木曜 PDF 版)

Mail Magazine

発行：株式会社ワールド・ワイズ・ジャパン LOGOS プロジェクト

〒550-0013

大阪市西区新町1丁目3-12四ツ橋セントラルビル2階

株式会社ワールド・ワイズ・ジャパン LOGOS メールマガジン編集部

TEL 06-6536-3488 FAX 06-6536-7774 info@world-wise.jp

受信エラー等で読み逃したメールマガジンがございましたら、ご遠慮なく編集部までご連絡ください。再配信させていただきます。